

- ▶ 川崎重工業健保組合会館の前に東郷井という碑が建っています。後に元帥、海軍大将となる東郷平八郎寓居跡です。明治18年(1885)7月、神戸の小野浜にて軍艦「大和」(初代)を建造中、当時海軍中佐だった東郷平八郎が監督官として神戸に派遣されていました。和洋折衷の神港倶楽部(第2次大戦で焼失)の和室を寓居先としました。約1年間滞在し、毎日ここから腰弁当で小野浜の造船所に通いました。当時はこの碑のすぐ傍に井戸があり、東郷が朝夕使用したといわれています。東郷の滞在を記念して昭和5年(1930)5月19日序幕建碑されました。この「東郷井」の命名をし筆を取ったのが財部彪(たからべ たけし 当時の海軍大将)。碑の裏の撰文を書いているのが美文家としても知られる小笠原長生(おがさわらながなり 当時の海軍中将)です。



東郷平八郎

東郷平八郎(1848~1934)。弘化4年(1848)1月27日、薩摩国鹿児島郡加治屋町に生まれました。少年時に薩英戦争に参加。戊辰戦争では薩藩軍艦「春日」に乗り組んで阿波沖海戦、宮古湾海戦、函館湾海戦に参加しています。維新後、英国に7年間留学。日清戦争では、巡洋艦「浪速」艦長として豊島沖海戦、黄海海戦、威海衛攻撃などに参加し、名を挙げます。日露戦争では、連合艦隊司令長官に大抜擢。必ずしも日本有利とはいえない日本海海戦でバルチック艦隊に圧勝。期待に応えました。昭和9年(1934)88歳にて逝去。

15 花隈城天守閣跡／福德寺

神戸市中央区花隈町15

- ▶ 花隈公園から北西方面に福德寺がありますが、門前に「花隈城天守閣之趾」の碑があります。



16 花隈城跡

神戸市中央区花隈町1

- ▶ 花隈城は、永禄10年(1567)、織田信長が中国地方に勢力を拡大していくための拠点として、荒木村重に築かせた城です。荒木は信長に反旗を翻したため、信長の命によって派遣された池田信輝に攻められ、天正8年(1580)に落城します。



花隈城公園



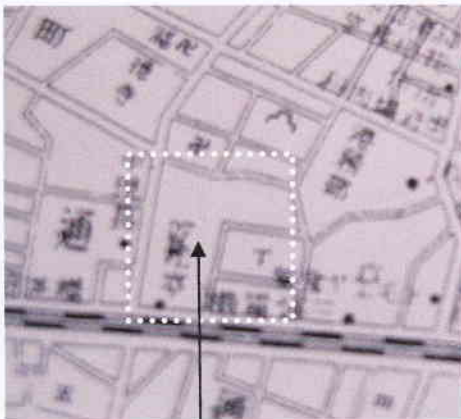
荒木村重 天文4年(1535)～天正14年(1586)

智勇に優れており、織田信長の配下となつてからは信長から才能を認められ、天正元年(1573)に摂津一国を与えられ、茨木城主となりました。同年、信長が足利義昭を攻めたとき、宇治填島城攻めて功を挙げ、天正2年(1574)、伊丹城主となります。その後も信長に従い、石山本願寺攻めなど各地を転戦し武功を挙げました。天正6年(1578)10月、村重は有岡城にて突如、信長に対して反旗を翻しました。織田軍羽柴秀吉は、村重と旧知の仲でもある黒田官兵衛を使者として有岡城に派遣し、翻意を促しましたが、村重は官兵衛を拘束し土牢に監禁してしまいます。その後、荒木は有岡城に籠城し、織田軍に対し1年間徹底抗戦しましたが、側近の中川清秀と高山右近が信長方に寝返つたため、戦況は圧倒的に不利となり、単身で有岡城を脱出して尼崎城へ、ついで花隈城に移り、最後は毛利氏に亡命しました。天正10年(1582)6月、信長が本能寺の変で死去すると堺に居住します。そして豊臣秀吉が覇権を握ると、大坂に茶人・荒木道薫として復帰を果たし、千利休らと親交をもちました。天正14年(1586)5月4日、堺で死去。享年52。

- ▶ 慶応4年(1868)1月11日神戸事件が起り、同年1月15日(1868年2月5日)、徳川幕府に代わり明治新政府樹立後初めて外国との会見が、神戸税関の前進である「運上所」にて行われました。新政府の代表として、公家の東久世通禧(ひがしくぜ・みちとみ)を始め、岩下佐次右衛門(薩摩)、寺島陶蔵(薩摩)、陸奥陽之助(土佐海援隊)、伊藤俊輔(長州)、吉井幸輔(薩摩)、片野十郎(長州)の6名が同席しました。2月には兵庫裁判所と改称し、東久世は総督に就任。伊藤俊輔は外国事務局判事に任命されました。5月17日には兵庫県庁と改称され、初代兵庫県知事に伊藤俊輔(博文)が任命されました。まだ27歳という若さでの就任です。馬にまたがってあちらこちら駆け巡り「坊主奉行」と呼ばれたそうです。庶民は「この若僧に何ができるか」という眼で見えていたようです。

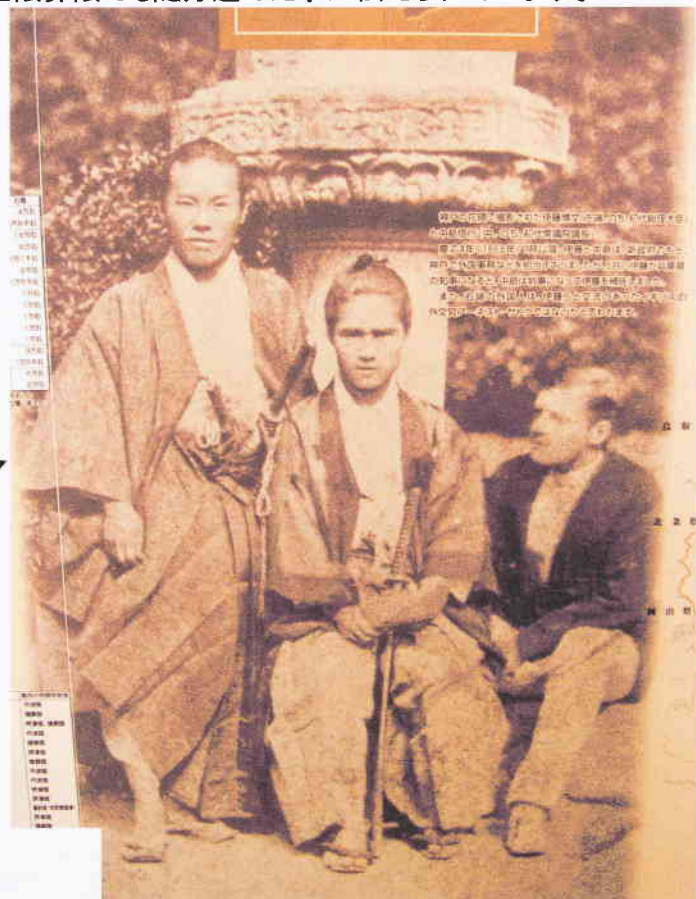
伊藤は、二ツ茶屋村の庄屋 橋本藤左衛門の別邸である橋本花壇を仮住居としました。橋本花壇の所在地は、旧住居表示では神戸市生田区長狭通6-78、現在は中央区花隈町3に該当します。明治2年(1869)7月、伊藤が知事を辞し神戸を去ることになりました。寓居跡地にて「吟松亭」という料亭を伊藤の妹が始めたそうです。

なお、伊藤は豪遊で有名でしたが、この花隈界限でも随分遊んだ事が伝えられています。



吟松亭

伊藤博文寓居先で撮影された写真
左が伊藤博文、中央は中島作太郎(信行)
中島は伊藤知事を補佐する判事でした。



現在の伊藤博文寓居跡

<伊藤博文寓居跡に関する情報提供>

- ・ 神戸市中央区の篠崎 紘昭 氏
- ・ 神戸市中央区花隈料亭「成駒家」の濱野 勲 氏

吟松亭の遺跡

吟松亭は昭和期まで存続していましたが、戦災で焼失してしまい復興はされていません。
吟松亭にあった燈籠が現在も残っており、神戸市北区星和台の料亭の玄関前に見ることができます。
※前頁での伊藤邸での写真にある燈籠とは別のようです。



「神戸又新(ゆうしん)日報」明治36年(1903)11月26日の記事より
「(前文省略)同亭(吟松亭)の玄関の板の中央を貫き、更に屋根を貫いて
居る松は後に植え付けたもので「吟松」といふ名には更に関係が深いと
云って宜しい(以下省略)」



吟松亭の写生

18 明治維新開港当時関門跡

神戸市中央区元町通6-2

- ▶ 幕府が外国人居留地を設置した慶応3年(1867)、密貿易を防ぐために置いた関門14箇所
のうちの一つで「西関門」と呼ばれたところです。
関門は明治4年(1871)に廃止され、自由に通行できるようになりました。

